

奥三河

伊那街道を歩こう！

鳳来路

ほうらいじ

玖老勢 副川 海老 与良木
くろぜ ふくがわ えび よらぎ



与良木隧道



玖老勢下市場道標

ほうこうじ
D放光寺跡



瀬戸岩

棚山

山びこの丘

つしま
C津島神社



しだれ花桃

くろぜ
玖老勢コミュニティプラザ

けいしょうじあと
B慶昌寺跡



鳳来寺山

しぶやこんのうまるほこら
A渋谷金王丸 祠



鳳来寺小学校

海老川

おまき桜

くろぜ ながら
玖老勢「長楽」の信号



地図、詳細は、QRコードからご覧ください

① おくやま あきばどうどうひょう
奥山・秋葉道道標

明治21年（1888）高さ97cm

伊那街道が鳳来寺道と交差する所に建てられた。

【正面 左奥山半僧坊・秋葉山鳳来寺 右面 明治21年 北設楽三橋】

※奥山とは、奥山半僧坊であり、臨済宗方広寺派の総本山



② くろ ぜ し も い ち ば
玖老勢下市場道標

寛政8年（1796）

高さ175cm。伊那街道が栃下橋の手前で分かれて鳳来寺道になる所に建てられた。

【正面 ほうらい寺道 右面 せんかう寺道 左面 寛政8年丙辰（ひのえたつ）春2月吉辰（きっしん）建之】※吉辰とは、吉日の意味

（表紙の写真）



③ えんがんざん
煙巖山道標

明治37年（1904）

旧玖老勢郵便局前に建てられた。

【正面 えんがん山道】えんがん山とは鳳来寺山のこと



④ しょうめんこんごうめいぶん こうしんとう
青面金剛名文の庚申塔

青面金剛の銘が市内で初見

詳細はQRコードで



⑤ ごうなかばし
郷中橋道標

「右 百観音道 是より五丁 左 新し路道」と記されているが、5丁は550mになる。大石の山寺観音と間違ふことが多いが、百観音道とは慶昌寺跡にある百観音のこと



⑥ にじゅうとりい
二重鳥居

津島神社の遥拝所として鳥居が建てられた。貞享元（1684）子9月吉日。

289cm。くろぜ石製である。二つの鳥居のうち、一つは別の遥拝所から移されたものだという。



⑦ おおいし
大石石造物

薬師如来【天明3卯11月吉日（1783）】

角柱型青面金剛像【大正6年（1917）】

馬頭観音【明治5年（1872）】

馬頭観音【昭和22年（1947）7月吉日】

妙法塔【文化5年（1808）】

徳住名号碑【文政8年（1825）】⇒

納経塔【文化5年（1868）】



はちまんやまこうしんとう
F 八幡山庚申塔



旧海老小中学校

海老構造改善センター

川売の梅

しだれ梅

ふくがわ す わ
E 副川諏訪神社



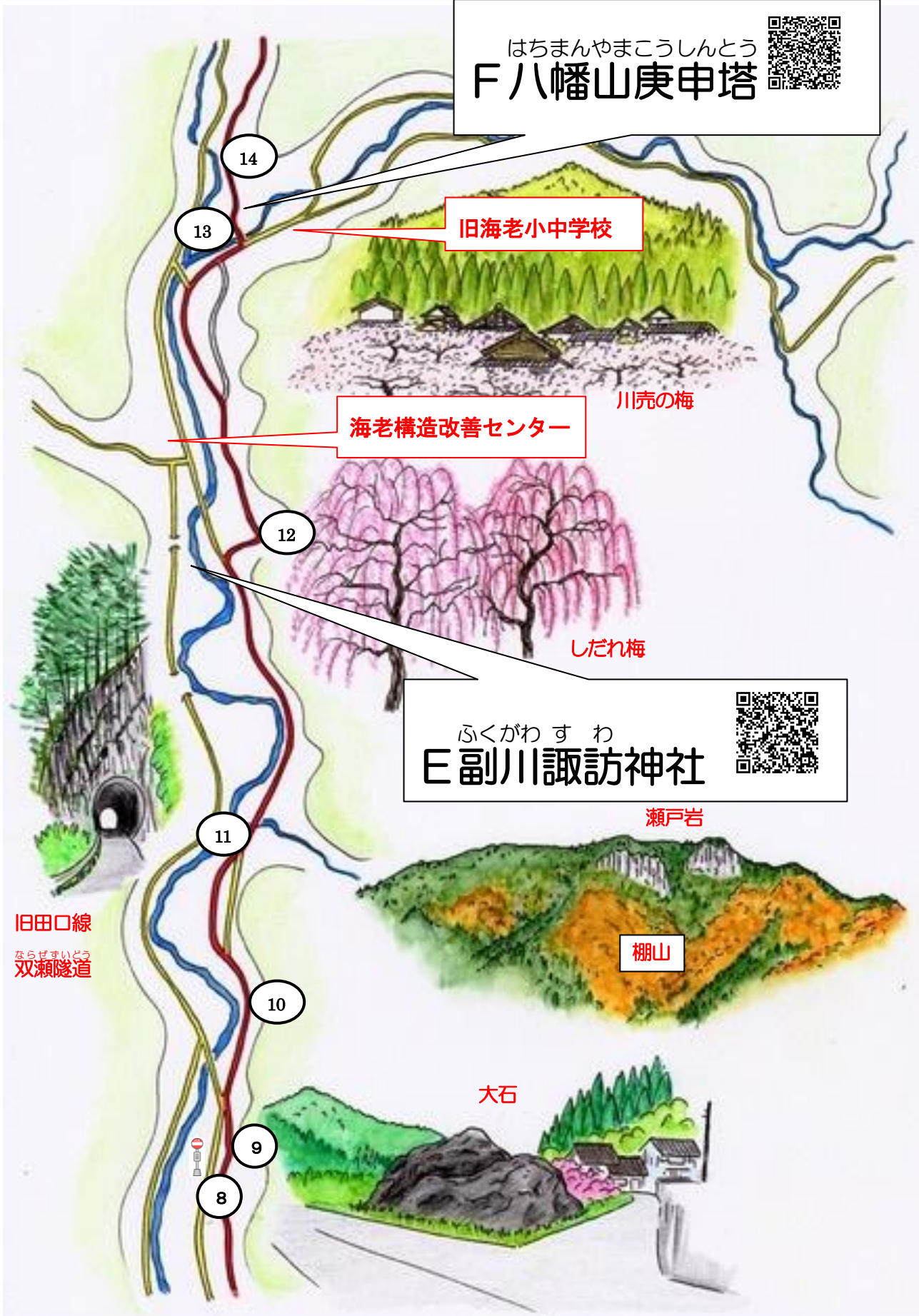
瀬戸岩

棚山

大石

旧田口線

なげすいどう
双瀬隧道



⑧ おおいしていりゅうじょ 大石停留所道標

地名の由来となった「大石」から伊那街道に入って300mほど北上すると、左に「大石停留所道」とかかれた道標がある。そこから細い道を進むと県道32号線に出る。ここは田口線三河大石駅だった場所で、現在は鳳来大石バス停がある。この付近の人が、三河大石駅のことを「大石停留所」と呼んでいたことからこの道標が「大石停留所」となった。



⑨ やまでらかんのんどう 山寺観音道道標

文化12年(1815)に建てられた道標である。ここを山側に向かって上って行くと、自然石でつくられた摩崖仏(山寺観音)がある。ここは、浄土宗の僧侶徳住上人が多くの弟子を連れて千日行を行った場所でもある。上人が、音連の滝(おとずれのたき)をながめながら座禅を行った場所や名号碑がある。また、山寺が存在していたことから石垣なども残る。



⑩ ふくがわぼとう 副川馬頭観音

県道32号線を歩いていくと、小高い場所に馬頭観音が建っている。その上に道祖神もあるが、当時はこの位置を伊那街道が通っていたと思われる。



⑪ ふくがわせきぞうぶつ 副川石造物

伊那街道の道下に、子安観音【年代不明】2体 馬頭観音【大正10年(1923)】が建っている。以前はこの石造物の横並びを伊那街道が通っていたようである。子安観音は、安産や幼児の成長を守護する観世音菩薩である。なぜひっそりと2体建っているのだろうか。



⑫ つかしま 塚島石造物

馬頭観音群、馬頭観音板碑(大正末期)、仙台石製である。仙台石は、稲井石とも呼ばれ、宮城県石巻市内の井内地内で採掘される名石。主に石碑として使用される。明治中期から昭和まで利用されてきたが、平成からは外国石材にとっ



⑬ すがめさだゆき か ひ 菅沼定敬歌碑

旧海老町役場跡の片隅に建つ。地区民からは忘れられた存在。歌碑には以下のような歌が記されている。

「なからへば あひみんこともありぬべく いまは命ぞたのみなりける」

(訳: このまま命を永らえれば、また会うこともあるだろう。今はこの命だけが頼りである。)

菅沼定敬の歌である。定敬は、文政元年(1818)に家督を継ぎ、海老菅沼家6代当主となり、大番頭や江戸城留守居役などの要職を務めた人物である。定敬には歌人としての一面もあった。定敬の歌碑は、東京浅草寺の境内や、新城桜淵の妙見堂横にもある。



⑭ ちょうづか 丁塚道標

奴田畑(ぬたばた)峠に向かう坂の下にある。明治3年(1870)、高さ95cm【右面 ぜんかう寺 正面 左田峯観音道 五十三下 左面 明治3庚午(かのえうま)年】





くらかけ
鞍掛山

20

19

四谷の千枚田

18

17

16

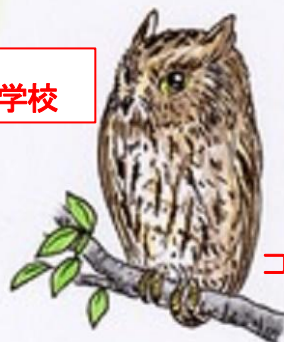
15

れんこく
旧連谷小学校

まつしたばとうかんのん
I 松下馬頭観音群



いなめ
稲目トンネル



コノハズク



ヤマユリ

まつした い とく
H 松下医徳寺



滝の滝

たぐちせん たきうえ
G 旧田口線「滝上」駅跡



まこも どうそじん
⑮ 真菰の道祖神

伊那街道を進み、真菰でわかれて仏坂峠を越え、神田(かだ)に抜ける道を「海老街道・ふりくさ道」と呼んでいる。この道は金指(かなさし)街道と伊那街道を結ぶ脇街道として発達した。真菰は人馬が行きかい、海老に次ぐ賑わいがあった。牛宿とよぶ屋号やかつて旅籠を営んだ家もある。

(※金指街道は、井伊谷と引佐町金指を結び、姫街道と繋がる街道)



おおやしろうちょうじややしき
⑯ 大屋城長者屋敷跡

江戸時代、人々は真菰小野田家のことを大屋城長者と称した。伊那街道から見上げると大きな屋根が見えたことが由来である。

初代小野田家当主は小野田源右衛門正勝。天正3年(1575)の長篠の戦いでは、籠城兵の一員として城を死守した。現在、長篠城址史跡保存館に源右衛門正勝の愛刀が展示されている。

(写真は源右衛門正勝の墓)



まこも
⑰ 真菰道標

「馬頭観世音道供養塔」の右に、「文政7甲申(キノエサル)・1824」、左に「11月吉祥日願主小野田正明」と刻んである。また、碑の中央下には「右 ふりくさ道・ひじり神八丁」、「左 かのん道」と刻まれ、馬頭観音供養と道標を兼ねた碑がある。小野田正明は、真菰小野田家では最盛期の当主である



⑱ オクダンドウ道標

明治4年(1871)に建てられた道標で、高さは134cmある。

「正面 右 ぜんかう寺 左 くわんおん 道」

左面「明治四年未年二月十日」。左は田峯観音、右は長野善光寺を指している。



⑲ トウゲンドウ石仏群

与良木峠(標高367m)を通る道は江戸時代から利用された道であり、戦国時代まではカシャゲ峠(標高480m)を通ったということである。昔は峠にお堂があったので、地元の人々は、この峠を「トウゲンドウ」と呼んだ。海老、玖老勢が一望され景色も良かったので茶店もあった。

昭和34年(1959)の伊勢湾台風でお堂が壊れてしまい、1番から33番までの石仏が雨ざらしになってしまったため、屋根付きの仮設小屋を立てた。そのため、風化も少なく、施主の住所や名前も読み取れる。各石造物に年号はないが、番外の1番には「慶応2年(1866)寅2月当村九吉」の文字がある。

付近には、如意輪観音、十一面観音など11基の石仏があり、少し下の路傍にも3基の石仏がある。最も古いものは聖観音で「貞享2年(1685)」である。



よらきすいどう
⑳ 与良木隧道

明治27年(1894)に作られた。

当時の原形を留めていることから、

愛知県最古のトンネルである。長さ35m、道路幅5m、車幅4m、高さ5m。設楽町側の扁額には、草書体で上段に「北設楽」、下段に「よらき隧道」と記される。

新城市側の扁額には、楷書体で上段に「南設楽」、下段に「與良木隧道」と記される。新城市側の坑門は明治の頃の姿を残している。内部はコンクリートで修復されているが、元々は素掘りだった。新城市側の数メートルが石積みの巻き立てになっているが、側壁部分とアーチ部分で仕上げ方が違っている。入口は、一番上の石列が「笠石」・二番目の石列が「帯石」・坑口の左右にある柱状の意匠が「壁柱」になっており、建設当時の坑門のデザインを残している。

(表紙の写真)



ぼとうかんのん 馬頭観音

伊那街道沿いには多くの馬頭観音が祀られている。江戸時代、新城と信州の間では馬による輸送が盛んであった。山間の湊（みなと）があたかも浪のように馬で溢れている様子を山湊馬浪（さんそうばろう）といった。馬の供養や無病息災を願い、守神として建立した。また、道中の安全も祈願した。馬頭観音と文字だけ彫られた石塔の他、怒りの形相を表している石塔もある。これは煩惱や悪を打ち砕く力強さを表している。



こうしんとう しょうめんこんごう 庚申塔と青面金剛

庚申とは10干と12支である庚（かのえ）と申（さる）が組み合わさったもので60日ごとにやってくる。人が悪いことをすると、体内の虫が庚申の日に皆が寝静まってから天帝にその悪事を報告に行き、寿命が短くなるといわれていたため、この日はみんなで集まって寝ずに太陽が出るのを待っていた。江戸時代から庶民に広まり、奥三河地方にもたくさんの庚申塔が建てられた。この怖い虫を押さえつけてくれるのが青面金剛である。庚申塔の台座には「みざる、きかざる、いわざる」が彫られていることが多い。



伊那街道を歩かれる方へ駐車場のご案内

海老構造改善センター 駐車場

昭和4年（1929）豊橋鉄道田口線が全線開通。三河海老駅は、田口線の駅としては最大の駅だった。この場所は、田口線三河海老駅構内で、車輛検査場があった。昭和43年（1968）に廃線となり、福田紡績（株）の工場が建設され、その後海老紡績となった。平成6年（1994）11月、海老構造改善センターが完成。地元の公民館活動・コミュニティー活動で幅広く利用されている。現在は駅構内の形跡は残っていないが、センター内に三河海老駅のジオラマが展示されている。

旧海老小中学校 駐車場

明治6年（1873）10月15日開校。平成28年（2016）3月31日閉校。143年の歴史に幕を閉じ、連谷小、鳳来寺小、鳳来西小が統合し、新生鳳来寺小学校となった。校門付近に身長135cmの二宮金次郎像が建っている。左手が折れているのは、戦後GHQの査察のうわさを聞き、左手に持つ書物に戦意高揚に関する文字が刻んであったため、削り取ろうと作業していたところ折れたしまったという。この地にあった旧海老中学校は、昭和44年（1969）3月31日に閉校し、鳳来中学校に統合された。



編集後記

伊那街道とはその名の通り、東三河と信州を結ぶ山間の縦貫道であり、中世においては軍事的にも重要な道であった。天正3年（1575）の長篠の戦いでは大量の軍事物資が送られた道であり、野田の戦いにおいては、道中の武田信玄が生涯を終えたと伝わる道でもある。近世では、生活物資を運搬する交易の道でもあり「三州馬・信州中馬」が関わり、更に渡船と結びついた交易が盛んになった。明治前期になると、旧道の拡幅工事によって馬車での物資輸送ができるようになり、大正時代にはトラック輸送が始まった。これに伴い道路も拡幅され、鉄道やトラックによる輸送が中心になると、馬車や渡船は衰退の一途をたどった。こうした経過の中で、今日まで生活の道として多くの人々が利用してきた。将来、伊那街道が姿を消したり、変えたりしていく前に、鳳来地区内の伊那街道の足跡を残していきたいと考えている。

本冊子は、新城市鳳来北西部自治区交付金により、作成された。

令和7年10月発行

奥三河の歴史遺産を守る会